

山行NO NO. 1773  
日時 2018.01.19(金)～20(土)  
山域 ハツ・赤岳(2899m)～阿弥陀岳(2805m)  
コース 赤岳鉱泉7:12－行者小屋7:46－文三郎道－中岳分岐9:00－赤岳9:33－中岳分岐  
中岳－阿弥陀岳11:11－御小屋尾根－最低コル－南沢－赤岳山荘13:49－もみの湯  
標高差 赤岳鉱泉約2200m～赤岳2899m＝約699m  
中岳コル約2650m～阿弥陀岳2805m＝約155m  
参加者 GT、KY、KH＝3名

## 誕生月前、赤岳に上る

1日目＝19日(金) 無風・快晴・高温

毎年、誕生月に赤岳に上っているが、今年は約1ヶ月前倒し。ただ、今まで日帰りだったが、大台を越え日帰りは厳しくなり、今回は前泊となった。

金曜日、ユックリ出発。午前には富士見スキー場でゲレンデスキーを楽しんだ。昨年新調した板も試した。昼食後、赤岳山荘からスタート。先日の雨で北沢道はガジガジに凍っていた。帰路、転倒し顔を血で染めていた方がいたが無理は出来ない。途中でアイゼンを履いた。



凄いガジガジ氷道

順調に進み赤岳鉱泉着。青空をバックにアイスキャンデーが見事。若い衆が二名訓練に励んでいた。小屋の方が周辺を整備していた。聞けば正面のハングを上れば一人前とのこと。

小屋に入った。ここの宿泊は初めて。暖房は十分利いているが、スリッパがなく足が冷たい。分かっていたら、持参したかった。ただ、小屋のスタッフには履いている方もいた。これって何??

時間は十分あった。飲むしかない。持参したワイン・ビア・日本酒を頂いた。談話室で埼玉だかのご夫婦と交流。明日、文三郎道でザイルを使う、使わないの検討をしていた。旦那は使う、奥方は不要だった。もう

一人の年配の方は、昨日夏沢鉱泉に宿泊し、今日硫黄岳を越えて来たと言った。明日は下山とのこと。私より上で76歳。やっぱり山が好きで高齢になっても止められないそうだ。夏沢鉱泉は茅野まで迎えに来てくれるそうだ。ただ、宿泊費は13000円とのこと。送迎代が入っているか。夕食は5時半から。ここの夕食はステーキが有名だが、この日は金目鯛だった。少しガッカリしたが、実はステーキは、街でいう一枚ステーキでなく、肉粉を合わせたものという。ま、これではね・・・。



談話室



金目鯛

2日目＝20日（土）無風・快晴・高温

朝食は6時半。早くて有難い。昨夜は早く寝すぎたためか、夜半に目が冴えてしまった。8名の相部屋だが問題はなかった。結局、小屋を出たのは最初だった。天気は良く風は無かった。感謝感謝。まずは、中山峠を越えて行者小屋に向かう。峠道はたいした道ではないが、以前雪崩事故があった。

行者小屋から仰ぐ阿弥陀岳は見事だった。蒼穹をバックに朝日に光輝いていた。「さあ、今日はあそこまで行くぞ」と気合を入れる。





行者小屋

文三郎道に入る。トレースはあった。今日の予定は、阿弥陀岳まで行く。ただ、下りを何処にするか未定だった。

理想は、1. 御小屋尾根を最低コル付近まで下り、直接、赤岳山荘まで下るがイイ。車が赤岳山荘に置いてあるからだ。その場合、コルからのルートは未知で南沢に下れるかどうか。 2. 1が駄目の場合、中岳沢を行者小屋に下る。トレースはあった。しかし、ここは雪崩の危険がある。以前、労山で大きな事故があった。ルートの的にも戻るのは美しくない。 3. 御小屋尾根を美濃戸まで下る。この場合、車を赤岳山荘まで取りに行かなければならない。これも美しくない。



阿弥陀岳



赤岳上り バックは権現岳



頂上直下



頂上



中岳分岐から赤岳に向かう。頂上まで急な雪壁だが、今回は雪が多く問題はなかった。KYがやや遅れた。このところ厳しい山から遠ざかっていたのが理由だろう。それでも頑張った。頂上に男女がいた。聞けば、下山は地藏尾根といった。

記念写真を撮って貰いすぐ下山。中岳分岐上で昨日の夫婦が上って来た。ザイルを使用かどうかは不明。でも、奥方は元気だった。力があるのだろう。

分岐から下り、中岳に上る。右手の文三郎道にゾロゾロ登山者が続いていた。再び下り中岳沢コル着。ここから約150m厳しい上りが待っている。登頂者が1名降りて来た。北稜に2名。梯子からの上りが特に厳しかった。ちょっと雪崩そうで怖い。実はこの日、白馬・小蓮華山で40歳のボーダーが雪崩で亡くなっている。これからの時期、雪崩は超要注意。



中岳から阿弥陀岳

KHがトップでガンガン上る。この方は、これ程厳しい上りでも息は荒くない。私はゼーゼーハーハー。体の構造が何処か違うのだろうか。頂上でKYを待つ。何処かのオジサンが御小屋尾根を上って来た。チェーンアイゼンだった。

KYを迎えすぐ下山。時間・天気・体調は悪くない。中岳沢下降は雪崩リスクがある。兎に角、最低コルまで行ってみることにした。御小屋尾根分岐でザイルの男女が来た。バリエーションかと聞けば、御小屋尾根といった。尾根は雪が結構深かった。頂上のオジサンは舟山十字路から4時間で来たといったが、そんな短時間でよく来たと思った。



阿弥陀岳上り



御小屋尾根下り

最低コルまで長かった。空腹だし疲れもあったので手前で昼食。日当たりが良く暖かった。梅酒・ビア・雑炊・ラーメンが美味かった。昼食後、短時間で最低コル。ブッシュはやや多そうだが下れそうだった。標高が下がり雪は上部ほどない。KHが志願して突っ込む。イイ感じで下降ははかどった。最近GPSがあり楽で安心である。





昼食

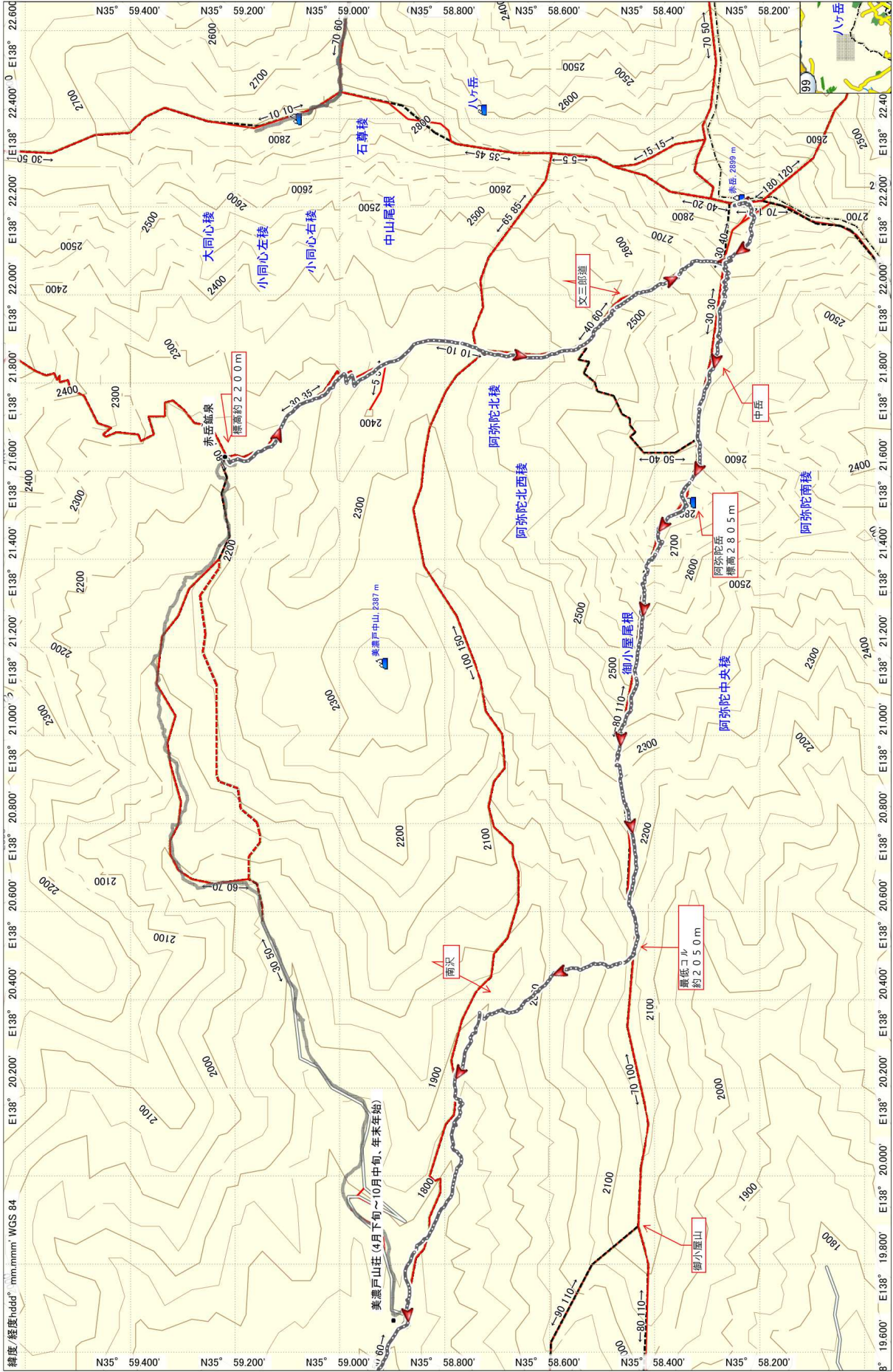


雑炊

沢音が聞こえた。南沢だった。渡渉を懸念したが、全く問題なく、安全に簡単に対岸に渡り、登山道に出た。場所は南沢の高巻き道の少し上だった。

登山道を下って周りを観察したが、渡渉点はここしかない、ベストな場所だった。最高の選択と決断だった。下山後は、「もみの湯」で温まり帰った。この温泉は、500ーと安価でなかなか良かった。地元のオジサンと湯船で交流した。田舎のオジサンは優しいね。

(了)



緯度/経度: mm.mmm WGS 84  
 日本 Topo 10M Plus V3  
 2018/01/22 11:00:07  
 GARMIN